様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００４４８

研究課題名（和文）フローベール文学の倫理的宗教的読解の試み

研究課題名（英文）An ethical and religious reading of Flaubert's literature

研究代表者
松澤　和宏（Matsuzawa, Kazuhiro）

名古屋大学・人文学研究科・名誉教授

研究者番号：３０２１９４２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、形式主義的なモダニズムによってしばしば軽視されてきたフローベール文学の倫理的宗教的側面に光をあてることを目的としている。フローベール文学がはらむ形而上学的次元と倫理的問いかけを、作品のテクストや前テクスト（草稿）などの具体的な分析を通して明らかにし、さらに社会的文学的文脈に位置付けながら解釈を提示した。
　その主要な成果は、フランスのパリでの国際シンポジウム(2022年)、及び日本での国際シンポジウム(2023年)での好投発表及び日本フランス語フランス文学会誌『littera』(2021年）に掲載された論文等々に示されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
フローベールの文学は、１９６０年代後半以降、その小説技法の現代性が注目を集め、マラルメからジョイスを経てヌーヴォー・ロマンに至るモダニズムの観点から読解が進められてきた。そうした観点はフローベールの作品が投げかける倫理的宗教的な問いかけを正面から受け止めることがなかった。しかし作家の書簡に明らかなように、作家は同時代の政治や社会の動向に「熱烈なリベラル」として批判的視線を注いでおり、また宗教的なものを最も重要なテーマとして捉えていた。作家の思想と作品との複雑で緊密な関係を明らかにすることは、同時に多くの研究者の囚われている現代的先入見を問題化することに直結するだろう。

研究成果の概要（英文）：　This study aims to clarify the ethical and religious aspects of Flaubert’s literature, too often neglected by the formalistic modernism. In order to do this, we revealed, through concrete analysis of the text and avant -text(drafts, manuscripts) , metaphysical dimension and ethical question and interpret the novel in the broader, socio-literary context of the 19th century.
　The principal results were presented at two international symposiums (Paris2022; Tokyo-Nagoya 2023) and published in academic journal “Littera” (2021) (Japanese Society of French language and literature) .

研究分野：人文学

キーワード：宗教　倫理　フローベール　モダニズム　写実主義　草稿

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

フローベール研究において、1960 年代半ば以降、前衛的な現代小説の技法を取り入れた先駆的な現代性を高く評価する傾向が半世紀にわたって続いてきた。こうした読解は２０世紀文学のモダニズム的動向を１９世紀のフローベールの文学に投影する目的論的進化論的観点である。そのために作家が書簡などで繰り返し述べている倫理的宗教的主題の重要性は、正面から論じられず、作品読解においては数ある素材の一つとして軽視されてきたのである。書簡等で明らかな作家の思想と研究者による作品読解との間には、看過できない隔たりが生じていたのである。

２．研究の目的

本研究は、フローベールの文学における倫的宗教的次元を、個別作品の具体的な分析と解釈を通して明らかにすることである、この次元がどのように現れてくるかを明らかにするには、世俗化の進む１９世紀の歴史的社会的文化的文脈との関連を考慮することが不可欠であるが、その際に単純な現実反映論ではなく、作品に一定の独立性を認め、小説の形式や構造、言語表現としての文体そのもののうちに、倫理的宗教的次元が自ずと潜んでいることを明らかにする。すなわち形式は内容と一体のものとして捉えられるべきであると考えられる。一例をあげれば、なぜ『ボヴァリー夫人』は、ヒロインの死で終わらずに、その後数章にわたってシャルルを中心に書かれているのか、という形式上の問題は、死者エマのシャルルにおける現存という死生観に関わる倫理的宗教的主題と切り離すことはできないのである。

こうした目に見えない次元の顕在化は、「写実主義の巨匠」という伝統的なフローベール像に改変を迫るものであるばかりではなく、近年多くの研究者が囚われているモダニズム的先入見を問い直すことにも繋がってくる。

３．研究の方法

方法としては、まず第一に、先行研究の作品解釈の批判的吟味を通じて、倫理的宗教的次元がこれまでいかに扱われ、覆い隠されてきたかを検討する。これは個別作品ごとの解釈史の検討である。第二に、作品の生成過程に遡り、作家の書き残した草稿の分析を通して、ナラト ロジー（物語論）の知見を活用しつつ本文の意味の重層性を明らかにすることである。とりわけ重要なのは、作中人物の思想や心理の部分であり、しばしば最終稿では、表現が省略的で間接的になっている。第三に、フローベールが影響を受けた作家や思想家のテクストとの間テクスト性のみならず、直接参照した証拠のない思想的文学的な伝統との関連に光を当てることである。従来の研究では、作家が実際に読んだ証拠や見聞した経験の有無を、思想や文学上の影響関係を判断する際の基準にしてきた。しかしこの基準に金科玉条に固執する固執することは、文学研究を作家個人の研究に解消することに繋がるおそれがある。文化的精神的な伝統はそれ自体目に見えないものであ理、個人を超えたものであるからである。

４．研究成果

主な研究成果は、『ボヴァリー夫人』『感情教育』『純な心』および『ブヴァールとペキュシェ』の各作品に即して、倫理的宗教的次元がいかに顕在化してくるかを明らかにする論文および国際シンポジウムでの口頭発表である。主要な成果を以下に挙げる。

(1)　松澤和宏「『ボヴァリー夫人』におけるシャルルの変貌について」、松澤和宏・小倉誠編『フローベール　文学と＜現代性＞の行方』、水声社、2021 年、47-63.

Kazuhiro Matsuzawa,La transformation intérieure de Madame Aubain dans Un coeur simple, Littera, Revue Japonaise de Langue et Littérature Françaises, n.6, mars 2021, 87-101

Kazuhiro Matsuzawa,“Présence et image dans Madame Bovary et Un Coeur simpl（“2022 年 12 月パリ に おける国際シンポジウムでの口頭発表，2024 年１月に刊行予定）.

『ボヴァリー夫人』に関しては、エマ亡き後のシャルルの変貌に焦点を当て、従来の否定的なシャルル評価を超えて、自らを裏切った者への赦しや愛する死者の現存という伝統的な倫理的宗教的主題がそこに読み取れることを明らかにしている。

(2) KazuhiroMatsuzawa, Avatars du romantisme. L’envers de l’histoire contemporaine

de Balzac et L'Education sentimentale de Flaubert　（2023年3月の国際シンポジウム「ロマン主義と第二帝政期の文学」における口頭発表.2024年位刊行予定）.

『感情教育』に関しては、小説結末近くでのアルヌー夫人の「最後の訪問」の場面が、バルザックの『現代史の裏面』におけるモンジュノのアランへの借金返済と酷似していることを間テクスト性の観点から指摘しつつ、この訪問の背後に借金返済に２０年をかけたアルヌー夫妻の苦労と誠意が、夫人との過去の恋愛に囚われているフレデリックの意識にはのぼらないことを重要な相違点として明らかにした。その反面年老いた夫人との関係性が、情熱恋愛の単なる終焉を超える倫理的主題を孕んでいることも指摘している。

(3) 松澤和宏「フローベール『純な心』における愛と信仰とアイロニー」、名古屋大学人文学研究論集、３巻、2020、105-123頁
Kazuhiro Matsuzawa, La transformation intérieure de Madame Aubain dans Un coeur simple, Littera, Revie Japonaise de Langue et Littérature Françaises, n.6, mars 2021, 87-101.
Présence et image dans Madame Bovary et Un Coeur simple（“2022年12月パリにおける国際シンポジウムでの口頭発表，2024年に刊行予定）.
『純な心』に関しては、フェリシテにおける愛する死者の現存を、生者や被造物への愛の連続性と非連続性において捉えた。愛する対象であった鸚鵡が死ぬことによって、鸚鵡は、宗教的な信仰の対象と化して聖霊と同一視されるに至るが、そこには時を超えた愛という宗教的な主題が顕在化している。

(4) 松澤和宏「フローベールとメーストル ―中島太郎『信仰と知　フローベールの宗教的形象』を読んで」、フランス語フランス文学会中部支部研究論集、46，2023、25-32頁.

『ブヴァールとペキュシェ』第９章における原罪をめぐって展開される司祭とブヴァールの議論を取り上げ、果たしてそれが中島太郎の指摘するようにメーストルと原罪説を批判するラロックとの対立に基づくものであるかどうかを検討した。明らかになったことは、この議論には、特にメーストル 的なものはなく、ありふれた意見対立が戯画化されているに過ぎないということである。フローベールは、メーストルの著作を読み、読書ノートを取っていたが、それは、この場面がメーストルとその批判 によって執筆されていることを意味しない。草稿資料の安易な解釈を糾すとともに、フローベール研究者のメーストル理解の偏向を指摘し、フローベールにおけるメーストル 受容の複雑さを示した。

(5) 松澤和宏「フローベールにおける＜主観的語り＞（自由間接話法と視点）「の文脈依存性について」、『ボヴァリー夫人』『感情教育』『純な心』の場合」、阿部宏編『語りと主観性』、ひつじ書房、2022,237-264頁.

フローベールの文体の最も重要な特徴は、いわゆる自由間接話法の組織的な使用にある。この手法は作中人物の主観的意識を表現するものとしてモダニズムの観点から評価されてきたものであるが、フローベールの用いた自由間接話法は、むしろ作中人物の意識から独立し、人間主体の意識を超えた物の世界の存在を語らずして語るアイロニカルな手法であることを明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 松澤和宏	４．巻 －
２．論文標題 フローベールにおける＜主観的語り＞（自由間接話法と視点）の文脈依存性について、『ボヴァリー夫人』『感情教育』『純な心』の場合	５．発行年 2022年
３．雑誌名 阿部宏編『語りと主観性』,ひつじ書房	６．最初と最後の頁 237-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松澤和宏	４．巻 46
２．論文標題 フローベールとメーストル　中島太郎『信仰と知の間　フローベールの宗教的形象』を読んで	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本フランス語フランス文学中部支部研究論集	６．最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24522/basllfc.45.0_Cover1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松澤和宏	４．巻 －
２．論文標題 『ボヴァリー夫人』におけるシャルルの変貌について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 松澤和宏・小倉孝誠編『フローベール　文学と＜現代性＞の行方』,水声社	６．最初と最後の頁 47-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松澤和宏	４．巻 45
２．論文標題 「狂った囚人」とトクヴィルー梅澤礼『囚人と狂気 19世紀フランスの監獄・文学・社会』を読んで	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本フランス語フランス文学会中部支部研究論集	６．最初と最後の頁 129-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24522/basllfc.45.0_Cover1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 KazuhiroMatsuzawa	4．巻 6
2．論文標題 La transformation interieure de Madame Aubain dans un coeur simple de Flaubert	5．発行年 2021年
3．雑誌名 LITTERA	6．最初と最後の頁 87-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松澤和宏	4．巻 27
2．論文標題 Gustave Flaubert Reve d'Orient, Plans et scenarios de Salammbo	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Cahier	6．最初と最後の頁 21-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松澤和宏	4．巻 3
2．論文標題 フローベール『純な心』における愛と信仰とアイロニー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6．最初と最後の頁 105-123頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松澤和宏	4．巻 特別号
2．論文標題 フローベールの「写実主義」の形而上学的宗教的次元についてー『ボヴァリー夫人』から『純な心』へー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 VARIETE	6．最初と最後の頁 21-39頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松澤和宏	4．巻 52
2．論文標題 記号の恣意性の一節をめぐってーソシュール文献学の観点からの一考察ー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 フランス語学研究	6．最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松澤和宏	4．巻 ー
2．論文標題 写実主義	5．発行年 2019年
3．雑誌名 社会思想史事典	6．最初と最後の頁 394-395
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kazuhiro MATSUZAWA	4．巻 2
2．論文標題 Train de nuit dans la voie lactee de kenji Miyazawa., les origines de la critique genetique au Japone	5．発行年 2019年
3．雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6．最初と最後の頁 139-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　3件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 Kazuhiro MATSUZAWA
2．発表標題 La reception de Chateaubriand au Japon
3．学会等名 Societe Chateaubriand（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Kazuhiro　Matsuzawa
２．発表標題 La pre;sence et l'image d'un mort aime dans Madame Bovary et Un coeur simple
３．学会等名 国際シンポジウム"Flaubert en images"組織委員会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kazuhiro Matsuzawa "
２．発表標題 Avatars du romantisme "L'envers de l'histoire contemporaine" et L'Education sentimentale" de Flaubert
３．学会等名 国際シンポジウム「ロマン主義と第二帝政期の文学」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計2件

１．著者名 松澤和宏，小倉孝誠、中島太郎、他16名	４．発行年 2021年
２．出版社 水声社	５．総ページ数 399
３．書名 フローベール　文学と＜現代性＞の行方	

１．著者名 阿部　宏、平塚徹、鈴木康志、松澤和宏、他10名	４．発行年 2022年
２．出版社 ひつじ書房	５．総ページ数 400
３．書名 語りと主観性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関